HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

Changes of maternal food intake, body weight and fetal growth through pregnancy in pregnant Japanese women

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2018-09-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 久保田, 君枝 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003428

論文審査の結果の要旨

日本において低出生体重児は増加傾向が続いており、大きな課題になっている。その要因のひとつとして、妊娠中の母親の体重増加が不十分であることがあげられている。そこで、本研究では妊娠中の母親の栄養摂取内容を明らかにするとともに、母親と児の体重やその増加量の関連を検討した。対象は、浜松医科大学附属病院を受診した単胎妊婦 245 名である。調査への協力が得られ、かつ妊娠経過中に合併症が無く、2008 年 6 月から 2011 年 5 月末日までに正常分娩で出産を完了した 135 名の母親及び胎児について分析を行った。妊娠第 1 期（妊娠 14～16 週）・妊娠第 2 期（妊娠 25～27 週）・妊娠第 3 期（妊娠 32～34 週）における母親の栄養摂取内容と体重、妊娠第 2 期と妊娠第 3 期における超音波検査による胎児の推定体重、出生時体重等を計測し情報を得た。栄養摂取内容については各期において、連続する 3 日間の食事（間食も含む）をデジタルカメラで撮影し、管理栄養士が食事分析ソフトを用いて栄養素量として数値化した。やせ群（BMI＜18.5）は 32 名、普通群（18.5≦BMI＜25.0）は 94 名、肥満群（25.0≦BMI）は 9 名であった。BMI 別の妊娠中の母親の体重増加量は、肥満群（6.0±4.4 kg）において、やせ群（10.9±3.6 kg）及び普通群（10.4±3.2 kg）よりも有意に少ない値であった ($p<0.001$)。母親の平均摂取エネルギー量は、1538～1594 kcal／日であり、厚生労働省の推奨量よりも遙かに低い値であるとともに、妊娠経過によってもほぼ一定であった。妊娠第 1 期のエネルギー、たんぱく質、炭水化物の摂取量が少ない母親は、妊娠中の体重が有意に小さい関連がみられた。また、母親の体重が小さいと、妊娠第 3 期の胎児の推定体重及び出生時の児体重が有意に小さい関連がみられた。

本研究は、妊婦の栄養摂取量について妊娠後期になっても増加していないことを日本において初めて明らかにするとともに、超音波検査による胎児の推定体重及び出生時体重等との相関を詳細に分析したことを審査委員会は高く評価した。

審査委員会では研究方法論及び結果の解釈等を中心に質疑がなされ、申請者は妥当な回答をした。以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　主査　　尾島 俊之
副査　　永田 年　　副査　　加藤 明彦